

徳島大学学生プロジェクト卒業生追跡調査報告 2024

森口茉莉亜¹⁾、日下一也²⁾、浮田浩行²⁾、金井純子²⁾、寺田賢治²⁾

1) 徳島大学高等教育研究センター、2) 徳島大学大学院社会産業理工学研究部

1. はじめに

徳島大学イノベーションプラザで展開されている自主的な学生プロジェクト活動は2004年の設立からこれまでに70のプロジェクトが立ち上がり、1000名を超える学生が携わってきた。これまで、イノベーションプラザ全体としてOBとの関わりを持ってこなかったが、OB会の発足を機にイノベーションプラザOBとの交流機会をいくつか実践した。本発表では、それらの活動実践について報告する。

2. 学生プロジェクト活動とOB会

徳島大学イノベーションプラザで行われている自主的な学生プロジェクト活動は、現在1年目に「イノベーションプロジェクト入門」、2年目に「イノベーションプロジェクト実践」を履修する。それぞれ通年集中2単位を取得できる選択授業である。3年目以降も活動する場合は、継続学生としてイノベーションプラザに所属する。コロナ禍以降も約200名の学生が毎年所属しているが、ここ数年はプロジェクト数が6と少ない状態が続いている(図1)。また、所属の内訳は、理工学部のみならず、各学部からの参加がある。

2007年度～2016年度の10年間については工学部の所轄であったが、それ以外の期間は全学組織として全学部からの学生を受け入れてきている。これらの人的資源を現役学生やイノベのさらなる発展のため、またイノベOBと学生との交流の場として活用していくことができればと2022年にOB会組織を発足した。まだまだ不十分であるが、相互にお互いが関わっていくことのできる環境を現在も構築中である。このような活動を進めていく中で、イノベOBへの依頼、イノベOBからの依頼、イノベOBからの提案という形で、イノベOBと現役学生との交流を実践した。



図1 所属プロジェクト数と人数の推移

3. 実践報告

(1) 講演会

学生プロジェクト活動では年度末に学生プロジェクト活動報告会を実施している。2023年2月の報告会終了後、OB会副会長(平成21年博士前期課程修了)による講演会を「イノベーションプラザで活動する現役学生へのメッセージ」というテーマで実施した。当時はコロナ禍の制限により、発表者や回答者を含む20名足らずが対面で参加し、その他の学生は、オンラインで公聴した。自身の仕事とイノベでの経験の同じところと違うところを対比させながら、学生プロジェクト活動の経験が社会に出た際にどのように役立っているかということについて話があった。大変わかりやすい話であり、学生にも好評であったが、事前の通知が不十分であったために、学生からの質疑が無く、準備に課題が残った。

(2) 企業説明会および座談会

2024年7月にマツダ株式会社の会社説明会及び座談会を学内にて実施した。説明会には2名が説明に来られ、内1名が、2020年徳島大学大学院修了学生であった。25名の学生が参加した。

自身の学生時代の活動なども踏まえたうえで、会社概要や仕事内容の紹介や入社後の業務内容の紹介など詳しく紹介があった。また質疑やプロジェクト紹介についても活発に行われ、予定時間を1時間以上上回る座談会となった。終了後にアンケート調査を実施した。

(3) 地域企業訪問

徳島県内の中小企業についてもっと学生が知って、相互にかかわれる関係を作りたいというOBの発案から、県内企業への工場見学を2024年9月に実施した。徳島県西部の株式会社ヨコタコーポレーションと阿波スピンドル株式会社の2社について訪れ、それぞれ2時間程度設定し、工場見学および座談会を開いた。14名の学生が参加した。見学会に際して事前の学習を促すためのアンケートフォームを作成し、回答を促した。また、終了時にもアンケートを行った。それぞれ40分程度の座談会であったが、参加した学生の多くが質問を行い、積極的に活動に参加できたのが印象的であった。

(4) アンケート調査

(2) および(3)における会社説明会、企業訪問ではアンケート調査を実施した。大きく分けて「満足度(5段階評価)」「興味があった内容(選択)(図8)」「印象に残ったこと(記述)」「質問しそびれたこと(記述)」「感想(記述)」についてMicrosoftFormsを用いて収集した。満足度は、すべて4.7点以上と高い満足度を得られた。記述においては、具体的に良かった点を記載している学生が多く、意識を持って聞く姿勢が身についていることが見受けられた。(3)の企業訪問については事前に訪問先企業のことを知ってもらうために、MicrosoftFormsを用いた事前学習を課した。各企業HPを確認し、「特に注目してほしいページを指定し、その中で興味を持ったこととその理由」「会社の概要の部分の中で興味を持ったものとその理由」「そのほかHPを読んで興味を持ったこととその理由」の3点についてそれぞれ記述回答を求めた。また、「自分の所属するプロジェクトの目的目標と強み」と「プロジェクトの視点から聞いてみたいこと」についての記述回答も

求めた。前日までにおよそ8割の学生が回答し、残り2割の学生も当日朝までには回答した。座談会での質疑が積極的に行われた一つの要因にこの事前学習の効果もあったと考えられる。

4. OBへのアンケート調査

イノベでの活動がどのように社会に出た際に活かされたのかについてアンケート調査を実施している。現在回収中であり、数件の回答しか得られていないが、「社会人として働く中でプロジェクト活動のどのような経験が生かされているか?」という質問については、図2のように製作活動以外が生かされていると回答があった。



図2 OBへのアンケートの一例

5. まとめと今後の予定

イノベOBによる会社説明会や講演会などの実践は学生らにとって有益であることはもちろん、これまでイノベーションプラザ運営に携わってきた教職員にとっても振り返りを行う良い機会となった。現役学生との交流に参加してくれるイノベOBは、学生プロジェクト活動に対して好印象を持っていることが前提となるが、そういったOBらが社会でどのように活躍し、経験を活かしているか交流の機会をもって示してくれることは、学生のモチベーションを高めるうえでも効果的である。今後もOBとの交流機会を積極的に設けていきたい。